

イチゴ新規栽培者の販路確保と産地の育成

対象者 イチゴ新規栽培者

【普及活動のねらい】

管内ではイチゴ生産者が急増しており、年々生産量が増加しています。このため、これまでイチゴの販売は庭先や直売所への出荷が中心でしたが、直売所において販売の競合がみられるようになり、新規栽培者が安定して経営するためには新たな販路の開拓が急務となっています。

そこで、新たな販路として共同販売の体制づくりに向けて JA こうかをはじめとした関係機関と連携して、来年度の本格実施に向けて支援を行いました。

【普及活動の内容】

共同販売に向けた意識醸成

令和4年3月から6月にかけて、新規参入した生産者2戸および既存生産者1戸によるトライアル出荷を実施しました。今年度はこのトライアル出荷結果の振り返りと、安定的な出荷の実現に向けた意見交換会を実施しました。また、管内の高設イチゴ生産者全戸を対象とした共同販売に関するアンケート調査を行うとともに、共同販売が経営のプラスとなる生産者を深掘りして共同販売に誘導し、仲間づくりによる販売体制の強化を図りました。さらに、出荷開始に向けて共同販売に意欲的な生産者に限定した共同販売開始に向けた研修会を12月22日に開催しました。

安定出荷に向けた栽培管理支援

栽培経験が浅い生産者が安定的に出荷できるよう集合研修や、栽培ハウスの相互訪問、個別巡回等により栽培管理技術の向上に向けた支援を継続的に実施しました。共同販売では安定した出荷が求められることから、葉や花芽の展開など草勢だけでなく、排液のEC値や葉柄中の硝酸イオン濃度などリアルタイムのデータで生育状況を把握し、栽培管理の改善に向けた技術指導を行いました。

【普及活動の成果】

共同販売に意欲的な生産者の仲間づくりにより、昨年度トライアル出荷した3戸に加え、あらたに2戸が共同販売を開始されます。来年度就農予定の生産者も就農計画に共同販売を位置付けるなど、共同で販売していく意識が高まっています。

今後も、共同販売体制づくりと安定出荷技術支援の両輪による支援を継続し、既存栽培者も、新規栽培者も安心して、イチゴを作れる、売れる産地を目指します。



トライアル出荷の意見交換会



イチゴの栄養診断